

オランダアムステルダム日本人学校の実践  
現地との交流を大切にした日本人学校での学習活動

～共に学び伸び合う児童生徒の育成「出会い、ふれ合い、高め合い」～

玉野市立荘内中学校 教頭 片山 明彦

## 1 研究の概要

アムステルダム日本人学校では、在外の地にあるという特色を生かしながら「豊かな心」の育成と「確かな学力」の定着をめざして日々教育実践に取り組んでいる。

現地理解とコミュニケーション手段の基礎として小学部1年生から6年生まで、オランダ人教師による現地オランダ語の授業、教育課程にある英語の授業とは別に小学部1年生から中学部3年生まで英会話の授業を教育課程の中に位置づけています。国際理解教育の柱として現地校との交流学习を据え、「出会い、ふれ合い、高め合い」をキャッチフレーズに共に学び伸び合う児童生徒の育成を研究テーマに実践に取り組んだ。



## 2 実践事例 ～気持ちを読み取り、思いを伝え合う～

「国際理解を進めながら、自立することを学ぶ」貴重な体験を通して

### (1) アウトファールト校との交流 Uitwisseling met Outvaart School

①交流の歴史 1991年～ 本校と現地校との交流学习のスタート

②交流学习の内容 1泊2日（ホームステイを含む）小学部6年生の相互学校訪問による交流学习。

・現地校来校 2007年11/8～9 ・現地校訪問 2008年2/22～23

### (2) ヨセフ校との交流 Uitwisseling met Joseph School

①交流の概要 1998年～ 低学年を除く小学部3年生から5年生の相互学校訪問による交流学习

②交流学习の内容

・現地校来校 2007年11/13（4年）11/15（3年）11/20（5年）

・現地校訪問 2008年2/4（3年）2/5（4年）2/7（5年）

### (3) クリステイク・リセウム Het Christlijk Lyceum Zeist 校との交流（中学部）

・対象 中学部2年生

・英語を共通語としてパートナーとコミュニケーションを図り、一緒に活動する。

・現地校来校 2008年1/23 ・現地校訪問 1008年2/6

### (4) その他現地理解のための社会見学・校外学習

## 3 まとめ

現地オランダの友達と言葉の壁を乗り越えてお互いを理解し、人間関係を育もうとする交流学习の取り組みは、理屈抜きに国際理解と自立することの大切さを体験的に学ばせることができる。教職員も現地校の教職員とお互いに交流を深めることができた。交流学习を国際理解の柱として実践していくことが、日本のよさを認識した上でグローバルな視点を持ち、世界にはばたく人材を育成することにつながるのだという実感をもった。

日本の教育にこれらの実践経験をどのように生かしていくのか？が今後の自分の課題である。